

西播磨新地域ビジョンの方向性（柱立て）イメージ（案）

※ 以下は県民意見等を基に事務局で分類・整理

第1の夢 つながる地域の絆西播磨 ～地域で共に支え合う繋がりのあるまち～

目標像1	地域みんなで子育てするまち	P 2
目標像2	未来を創る人づくり	P 3
目標像3	おせっかいで縁を結ぶ	P 4
目標像4	あらゆる個性を受け入れるまち	P 5

第2の夢 元気な西播磨 ～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

目標像1	地域の強みでみんなに選ばれるまち	P 6
目標像2	いつか戻りたい・ずっと住み続けたいまち	P 8
目標像3	誰もが自分らしく活躍できるまち	P 9
目標像4	起業の夢がかなうまち	P 9

第3の夢 自立の西播磨 ～地域で循環するまち～

目標像1	自然と共生するまち	P 10
目標像2	地産地消でなんでもそろうまち	P 11
目標像3	知恵と工夫で生きる遊休資源	P 12
目標像4	未来をひらく播磨科学公園都市	P 12

第4の夢 安全安心の西播磨 ～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

目標像1	いきいきと暮らし続けられるまち	P 13
目標像2	誰もが自由に移動しやすいまち	P 14
目標像3	安心できる健康・福祉・地域医療	P 14
目標像4	防災力の高いまち	P 15

第1の夢 つながる地域の絆西播磨 ～地域で共に支え合う繋がりのあるまち～

目標像1 地域みんなで子育てするまち

〈県民意見〉

- ・学校以外のところで地域がいかに深く関わるか、地域で子どもを育てることが大事。
- ・地域のコミュニティを活性化させ、共助により若者（特に子育て中の女性）が安心して働ける地域にしたい。
- ・地域に愛着を持つよう地域の子どもは地域の大人が見守り育てるといふ、数十年前は普通であったことが「現在～これからの時代」に必要な。将来、地域を守る青少年の育成。地域行事は子どもが多く参加するように取り組む。コミュニティスクールとして学校、家庭、地域が一体となって多くの大人が総がかりで地域の子どもを育てていく仕組みを地域に作っていく。
- ・子育て支援を地域の課題として捉え、若者が安心して住める地域社会を構築する。
- ・子育てと仕事の両立支援や地域全体で子育てを支える仕組みづくり。
- ・どこの子どもでもえこひいきなく大人が見守り育てる。
- ・地域を牽引するような青少年を育成するため、地域の子どもを地域の大人が見守り育てる取組み。
- ・スポーツで頑張っている選手は、地域が積極的に関わり、地域の愛情をたくさん貰っているような気がする。地域の誇りを持って地域を背負って発信してくれる子どもを一人でも多く増やしたい。

目標像 2 未来を創る人づくり

〈県民意見〉

- ・人口減少について、結婚しない自由や子どもを産まない自由がある中、有効な手段が少ないと思うが、子どもの頃から意識改革を促していくことが必要。
- ・全体的に見れば少子高齢化と言われているが、同じ市内の中でも子どもが少ないところ、多いところと差が出ているので、何かサポートできるような仕組みづくりも大切。
- ・言われたことは完璧にやるが、自由な発想ができない子どもが増えている。
- ・教育の機会と質の確保ができるか不安を覚えており、地方の教育環境やデジタル教育環境の整備が必要。
- ・子ども達の教育環境の充実は誰もが関心が高い。安全対策としての通学路の看板やグリーンベルトの設置、コロナ禍で活用も増えた体育館等への空調設備の設置も重要。
- ・ギガスクール構想について、端末機器の整備とともに、指導する教員等の人材育成にも取り組む必要がある。
- ・最先端のITと原始的な教育の共存、心を伝えて、その心をどのようにITに載せるかという視点が、次の世代を託す子ども達の教育に必要。
- ・どんな仕事（働き方）があるかを教えるキャリア教育も重要。
- ・子供たちがオンラインで全国の他地域、海外等の多文化の子どもたちとの交流を通して境界を越えたグローバルな地域の実現。
- ・20～40才代が活気を持ち、地域を引っ張っていくような取り組みが必要。
- ・既婚率の向上、次世代の育成。
- ・若い世代の婚活が全体的に必要である。最近では、未婚化・晩婚化が相当増えている。青少年活動事業など若い人の交流の場が必要。
- ・次代の担い手、地域を牽引するような青少年の育成。
- ・自然の中で活動し、自然を愛し、思いやりのある青少年を育て、地域を牽引する社会人を育成する活動。
- ・子どもの教育から考えるべき。一応大学へ行くための勉強と、子どものときに身に着けなければならない事を教えるべき。
- ・日本語学習事業を強化するため支援ボランティア増加に取り組む。
- ・外国人青少年を育てるため、児童の居場所づくりと学習支援に一層の努力。
- ・社会教育と学校教育の連携を深め、青少年の育成に努める。
- ・子どもたちに将来どんな職業につきたいかを考えるきっかけづくりとして、小さい子ども向けや、小中学生向けに仕事を伝える体験授業などの実施。
- ・女性部は世代交代ができていないのが大きな問題。消費者の立場を理解し、地域に必要とされる組織を目指すことが急がれている。
- ・地域をけん引するような青少年の育成。
- ・地域の活動には、大人、子ども問わず、積極的に参加できる環境づくり、自他ともに考えられる人を育てる教育や模範行動の推進。
- ・ふるさと意識を醸成する教育。

〈検討委員会意見〉

- ・目指すべき姿は、子育てしたいと思われる地域、東京並みの教育水準や学び方の自由度が高い地域。次世代の人材を育成する上でも、子育てや教育が大事。

目標像3 おせっかいで縁を結ぶ

〈県民意見〉

- ・町内でも年齢層の偏りがある。外から新しく入ってきた者へコミュニティを引き継いでいく必要がある。
- ・高齢化率55%を超える小さな地区で働いているが、その地区が好きで「おせっかいな人」が多い。しがらみとも言えるが、これからの時代に必要。物をくれたり、子供の面倒を見てくれたり、若い世代が抱えている悩み、延長保育が短くフルタイムで働けない問題を、おせっかいな人が担うことにより解決するのではないかと。
- ・高齢者が住みやすいコミュニティの確立と共助による地域の強化。
- ・人と人のつながりのある地域。地域住民が協力し合える日常をおくれる地域。
- ・地域課題は、自分たちで解決していくという共通意識が根付いた、住民が互いに力を合わせ助けあえる地域。
- ・共助、互助、近助による地域のコミュニティの強化、補完（地域共生社会の実現）。
- ・隣近所との一定の関りのある温かい共生集落。
- ・古い街並みを残しつつ、近未来に見合った人情溢れる地域。
- ・IT等を活用しながらも地域の直接的なかわりを減らすことなく、連携がとりやすい地域でありたい。
- ・みんなが住みたいまちづくりを目指して真に心の豊かさを感じる共助協働の地域となる。
- ・人のつながりを大切にするとアナログ的な地域社会とデジタル社会の共存。
- ・人口維持し、人と人の触れ合い（交流）を大切にすると地域社会。
- ・人と人とのふれあいを高め、安全、安心な地域。
- ・地域共生社会の実現に向け「福祉でまちづくり」。
- ・助け合いながら、ご近所で集会所等を利用して集える日々があると良い。
- ・人と人との触れ合いを大切に誰でもが参加しやすい地域づくり。
- ・地域の中でお互いが助け合い、世代を越えて交流のある地域社会。
- ・一人一人の取り組みが地域を支えるという自治意識の高まり（地産地消、定住促進など）
- ・ふれあいを目的としたイベントや防災訓練など、参加者が少なく地域を意識しない人が多い。昔ながらのふれあいを大事にした地域社会とデジタル社会との共存。
- ・人間同士の温かみのあるコミュニティと先進技術の積極的導入の調和が必要になる。
- ・情報技術の活用により、児童生徒、高齢者等の見守り活動の推進等現在の課題となっている諸問題を解決したコミュニティづくり。
- ・誰もが地域活動に参加し、ご近所のつながりを持ち、助け合う社会。
- ・子ども、高齢者の見守り活動。災害発生時の共助の仕組みづくりに取り組み、地域住民同士の繋がりを強化。
- ・女性グループを組織化し、地域の活動に参画する体制づくり。
- ・地域の助け合いの社会が必要。住民同士が集うまちづくり。
- ・地域におけるコミュニティ活動の充実、新たな担い手の育成。
- ・様々な団体が関わり、地域活動が気軽に取り組める地域。
- ・子どもと地域とがふれあえるような活動への取り組みと災害に強い環境整備。
- ・人とのふれあい、会話のある地域にするため、まず自治会から補強する必要がある。
- ・イベントを増やすなど、老若男女の交流を増やす。

目標像4 あらゆる個性を受け容れるまち

〈県民意見〉

- ・ 田舎は閉鎖的で外部の者を受け入れない風潮があるので、地域で変えていかなければならない。
- ・ 災害に強い地域社会の形成。活気に満ちた地域社会の実現には、地域に住まうあらゆる世代が個々で世代間ギャップや考え方の違いを認識し、社会情勢の変化を柔軟に受け入れる必要がある。 地域住民が互いの意見・立場を尊重しながら、共助が地域社会には必要。
- ・ 人口減少によるコミュニティの弱体化が進むと感じている。現在の若者世代は地域のコミュニティを好まない志向が強い。その世代が地域の牽引世代になるだろう時代に向け、現コミュニティのあり方を再考する必要がある。
- ・ 若者が職人になりたいがらない。需要があるのに仕事ができない。 若者の新しい価値観や意見も取り入れていかなければならない。
- ・ 今の若者の意見だが、親世代のように仕事に生きるのではなく、自分の時間が大事という考えの者が多い。若者に長く働いてもらうためには、仕事の中身ややり甲斐よりも、本人のための時間を作ってやる環境（9時～5時勤務など）も必要。
- ・ 住民が主体になり活動でき、一人一人の個性が大切にされる地域。
- ・ 地方の人口減対策として、外国人の活用もポイントになる。いかに外部から人を呼び込んでくるかが課題。人がいないと消費も回らないし、経済も回っていかない。
- ・ 外国人の雇用に関しては問題ないが、市内で外国人に貸してくれるアパートが極端に少ないので、意識を変えていく必要がある。
- ・ 外国人は自国の文化をそのまま持ち込んで就業するため、地元採用者との調和を図っていく必要がある。
- ・ 労働力不足の対策として、外国人を含めた労働者を確保する必要がある。
- ・ 在住外国人との交流や情報交換が出来る機会が必要。
- ・ 人口が増えることによって我々は豊かになったので、今後も豊かになるためには、人口は必要。行政は少子化を防ぐためにいろいろとやっているが、なかなか成果は上がってない。人口減少を防ぐためには、日本は多民族社会にならないといけない。

〈検討委員会意見〉

- ・ 人口減イコール悪ではない。人口が減っても豊かに暮らし続けられる地域を守っていく、そのために自治会や地域運営組織は、人口が減ってもやっていけるように事業や体制を見直すなど変化していくことが必要。
- ・ 自治会運営に子どものアイデアを取り入れるなど、子どもを巻き込んだ地域づくりも必要。地元愛の醸成にも繋がる。
- ・ 自治会組織への女性の参画など、自治会運営も変えていく必要がある。
- ・ 農林コミュニティの分野では、外国人や興味を持っている地域外の者が短期でも自由に入りできるコミュニティ、それを許容していく地域側の態度や認識の変革が必要。
- ・ 地域、産業等多方面で、「昭和的な社会の形(中央集権、行政主導、上意下達、男性重視、年長者重視、大都市大企業志向、拡大再生、専業主婦等)」を大きく変える必要がある
- ・ 外部人材や外国人の活用・共生がコミュニティ維持の突破口にもなる。
- ・ 外国人との関係性は、様々な分野でこれから相当重要になってくる。多文化を共有し外国人とのコミュニティとしての繋がりを創っていく必要がある。
- ・ 地域が地域を支えるのは限界が来ている。外部人材も活用した新しいコミュニティづくりの必要性を感じている。ボランティアでは継続困難なため、地域で儲ける仕組みづくりも必要。

第2の夢 元気な西播磨 ～地域の強みを活かした賑わいと活力のあるまち～

目標像1 地域の強みでみんなに選ばれるまち

〈県民意見〉

- ・ 都会に近い田舎で良いところ。景観条例など気をつけていて、道路のガードがベージュ色だったり、しっとりとしたまちづくりの感覚は、見習うべきところ。自然豊かでもある。30年後もこの良さを残していければいい。
- ・ 来年度、新規採用として西宮市や加古川市から採用した。定着してもらえるよう、地元のいいところを伝えていこうと考えている。
- ・ 揖保川と千種川の清流は、子どもたちの良い自然体験の場となっている。こうした多自然地域ならではの良さを引き継いでいかなければならない。
- ・ 地域の夏祭りを開催することで、人が集まり、まちに元気を与えられる。今年はコロナ禍で開催できなかったが、祭を楽しみにしている人達の声も聞いたので、次世代の子供たちに残していきたい。
- ・ 人口減少が進んでも、今住んでいる地域に住み続け地域の文化や特徴が生き続けている。
- ・ 心豊かな人が醸成される風土、文化を大切にす地域。
- ・ 自然や文化を大切にすまちづくり。
- ・ 地域の良さを世代を越えて継承できる地域づくり。
- ・ 歴史ある港町として受け継がれてきているため、景観・漁業者を後世にも残したい。
- ・ 文化財や伝統的なイベントを大切にし、地域のPRになるような取組みを実施。
- ・ 先人の作った財産を磨く。地域によって異なるはず。
- ・ 地域住民の繋がりが深いところや、四季の移り変わりが感じられる豊かな自然など、町の魅力を外に伝えていきたい。
- ・ もっと若者が増えて暮らしやすいまちになってほしい。そのためには、地域住民が協力してまちの魅力を効果的に発信することが大切。
- ・ 地域の特色や伝統を様々なツールを活用して発信していきたい。地域の魅力を知ってもらえれば、移住・定住者が増えるのではないかな。
- ・ 最近、都会の人から見れば牡蠣は魅力で、人を誘致する武器になることを知った。強みを伸ばすにはどうしたらいいかを考えることが大事。地域の特色を生かせるような取組が重要である。
- ・ 定住者を確保することは難しいので、地域資源を活かした交流人口を増やす取組が大切。
- ・ 観光や食を切り口にアピールし、交流人口の増加や定住のきっかけになれば、地域産業の活性化にも繋がる。
- ・ 地域資源（観光資源）を活用し、1年を通じて人が何度でも訪れたくなる魅力あるまちづくり。
- ・ 天文台公園、スプリング8、県立大等を武器にしたまちの活性化。
- ・ 広島のもみじ饅頭のような地元の材料を使った地域の特産品を開発し、地域に人を呼び込みたい。
- ・ 龍野は「レザー」「そうめん」「しょうゆ」の3つの日本一があるまち。この産業とまち並みを掛け合わせれば、地域を盛り上げることができる。
- ・ 人口が減らない市町村は自分のまちの特徴をよく掴んで、その特徴を最大限に生かし、積極的に取り組んでいる。まち並み等の観光で人を呼び込み、魅力のあるまちにして、人を増やし、観光産業として活性化させる。

- ・関西空港から姫路城まで足を運んでいた外国人に、西播磨へも来てもらえるように魅力的なスポット、環境づくりを考えていくことが必要。
- ・赤穂のインバウンドは、広島や岡山、四国等、岡山空港や広島空港を利用しながら周遊する方が主。瀬戸内DMOや、岡山・広島の行政、J R西日本とタイアップしながら、姫路や赤穂で周遊してもらえるような取組みが必要。
- ・「赤とんぼ」や童謡の里などの地域資源を活かしたインバウンド観光の推進。
- ・仕事の在り方が変わり、住むところの自由度が増し、都市部で無理をして生活している人たちを西播磨に引き入れることができれば、人口の下げ幅は抑えられるのではないか。交通の便が良いところ、自然も豊か、子育て環境等、地域の良さをPRしていければよい。
- ・SNS等で情報発信はしているが、地域の認知度が低い。重要伝統的建造物群保存地区に指定された観光資源や、海、山など、マスコミとのタイアップ等により知名度を上げる取組みが必要。
- ・安全安心、交通が便利、教育・文化が充実し、働く場が近くにあることを認知してもらうための地域プロモーションPR活動。
- ・農村人口をいかに増やすか、地域の持つ良さ、魅力を発見し、都会、他地域へPRし農村人口を増大すべき。
- ・農村地域に居住する人の増加への取組み。地域の魅力発見、地域の宝物等をSNS等で紹介し、地域を知ってもらう事から取り組む。先ず、受け入れ態勢を創設することが必要。
- ・高速通信網が都会と同様に整備され、テレワーク技術の発達により企業のオフィス分散などで利用される地域。
- ・田園地域・海浜地域のサテライトオフィス化などによる人の動きが感じられるまち。
- ・テクノロジーの進化により都市部でなくても仕事ができるという前提で、地方の住環境の整備が必要である。企業が移ってくることができれば、人口流出の一番の歯止めになる。
- ・新幹線の駅もあり通勤しやすいので、ベッドタウンとしての魅力を高める必要がある。

〈検討委員会意見〉

- ・農福連携など、普段交わらないところが交わることによってイノベーションが生まれる可能性がある。横断的な取組み、協働の取組みが大事。

目標像2 いつか戻りたい・ずっと住み続けたいまち

〈県民意見〉

- ・各自治体は、少子対策していますといいながら、人口の取り合いになっている。そうではなく、子どもが住みたいと思って定住していくまちづくりをしていけば、他所から取らなくても済むのではないか。子どもは住む理由がないから出て行く。
- ・子育てしやすいとか、子どもが安全な地域という目標になりがちだが、子どもがどうしたら楽しくなるか、楽しめる地域を考えるのも一つの手法。
- ・子どもが住みやすい地域にしていきたい。
- ・地域出身者が関わりたい、時々帰りたいと思える地域づくり。
- ・子育て世帯の支援策充実により、地元に住んでみたいと思えるまち。
- ・いま住んでいる子供が大人になっても、地元に住みたいと思えるまち。
- ・若者が住みやすい環境づくり。一旦田舎を離れてもまた戻ってくるような、誇りを持てる、魅力ある地域づくり。
- ・県外大学へ進学しても地元に戻ってくる仕組みづくりが必要。
- ・UIJ ターン促進について、兵庫の子どもが県外の大学から県内に戻ってきたら、3年間家賃を無料にするなど、就職活動の時から地元を意識させることが大事。戻ってくるきっかけになる。
- ・子どもが羽ばたくことはいいことだが、地元に戻ってこようと思う選択肢を考えられるようにしておく必要がある。
- ・テクノの研究者や外国人などの定住、地方都市への若者回帰が必要。
- ・テクノロジーの進歩により、地方の楽しい暮らしの魅力が増し、自己実現が可能になる。
- ・テレワークの定着により都市部からの移住（人口の首都圏集中の緩和）が増え、若者が出ていかない町に。安心して働け、定着でき、働く環境が整備された地域・場所を選ばない働き方が地方の活性化につながる。
- ・空き家への移住、リモートによる稼ぎを推奨し、支援する組織・仕組みをつくる。
- ・現状維持のためにUターン、Iターンを推進し、空き家を増やさない。
- ・なるようにしかならない。仕方ないという諦め感を払拭して夢と希望が持てる構想が必要で、定住促進に向けた取組みが大切。

目標像3 誰もが自分らしく活躍できるまち

〈県民意見〉

- ・子育て支援員という制度があるが、保育士不足のため、元気な高齢者が保育に参加できる仕組みがあればよい。
- ・子どもの人口増は期待できない。現状の人口を考えて高齢者にも健康で働く場を提供。
- ・子育て中のママさんからは、働く場所がない、子ども連れでも働けるところ、2時間だけでもいいから働きたいという意見が多い。2時間だけでも受け入れてくれる企業があればマッチングできるのだが、新しい働き方改革として、そういった人の働く場も提供できればいい。
- ・女性が活躍できる社会が本当に守られる働き方改革。
- ・地元で働くことができる、地域の特性を生かした職場で元気住民の姿。
- ・ITを活用して、高齢者が職に就けるような環境の実現。
- ・若者・Uターン者への雇用の創出。
- ・田舎ならではの良さを守りつつテクノロジーを駆使した若者が定着できる環境づくり。
- ・場所を選ばない働き方や、地方でも若者が定着して生活できる環境の実現。
- ・都心部へ流れる若年層が地元に残り仕事が見つけられる環境（デジタル社会によって場所を選ばなくてよい働き方）。
- ・働き方改革によりテレワークの促進が図られれば、一極集中ではなく地元において生活・雇用が成り立つ環境の実現。
- ・テレワークによるワークライフバランスの充実。
- ・就労地を選ばない環境の職場が増えることにより、人口流出の歯止めとなる。
- ・地元雇用の促進策として、メーカー等への就職を目的にした、普通高校の一部電気科など実業クラスへの変更。
- ・技術革新と既存技術の継承により、高収益メーカーの育成と地元雇用の推進。
- ・大企業と中小零細企業とがお互い協力し合い、活気あふれる地域。
- ・地の利を生かして、企業のサブステーション誘致を進める。

〈検討委員会意見〉

- ・障害者などの遊休資源をもっと活用すべき。障害者は福祉分野しか出来ないと決めつけているところがある。

目標像4 起業の夢が実現するまち

〈県民意見〉

- ・竜野駅周辺の商店は、100年前の70数軒から10軒程度に減少している。地域の活性化や賑わいづくりのため、創業支援や起業促進策の拡大により、新たな人が移住や起業しやすい環境づくりが必要。
- ・比較的恵まれた自然と交通の利便性を活かした住・勤近接、子育て世帯の定住増に伴う、商店やニュービジネスの創業・立地。
- ・牡蠣を中心としたグルメや温泉等地域資源を売りにした民宿等宿泊施設の創業促進。
- ・既存事業所の経営支援や事業承継支援、新規創業支援を継続的に行っていくことが必要。

第3の夢 自立の西播磨 ～地域で循環するまち～

目標像1 自然と共生するまち

〈県民意見〉

- ・ AIとかロボットとかスマートファクトリーづくりが進むほど、人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切になる。自然を日常生活に取り入れるのが、これからの豊かさだと思う。若者は自然の中で余暇を楽しむようにシフトすると思うので、自然と共生できるまちが大切になる。
- ・ 子どもの感性を養うことが自由な発想につながると思うので、たくさんの自然を教育の中にどう取り入れるかが大切。スマホで世界が見られるなど、デジタルの発展は悪いことではないが、スマホを見ない者に逆に感性が豊かな人が多いように感じる。自分の目で見て触って感じられる、そういう体験の場を大切にしたい。
- ・ 将来を任せられる人材づくりが必要。そのために、学校教育を見直すことから始めるべき。人間味のある子どもたちを育てるには、自然環境を利用して遊ばせ、心の広い考えの持てる子どもづくりが必要。
- ・ 緑豊かな集落、四季を感じ暮らせる故郷を守る。
- ・ 自然と共生し、豊かな自然や田園風景を後世に残したい。
- ・ 恵まれた環境の特性を生かし、水産物や自然を次の世代に残しつつ、若者が住み続けることができる環境の実現。
- ・ 極度の都市への人口集中は、衣食住、環境問題、大規模災害に対応できない危うさがある。危機管理上また魅力ある暮らし方は、地方に優位性があり、これからは暮らしの転換期になる。
- ・ デジタル化が進む事により都市と地方（田舎）との格差が増すと同時に、若者の田舎離れが進む事は目に見えている。そこであえて田舎はデジタル化の町にするのではなく、スローライフを楽しめるアナログの社会の町（昭和）に戻すことだと思う。
- ・ あえてテクノロジー化に進む事ではなく、スローライフが楽しめる人間味が作り出せるまちにする事が大切である。
- ・ 自然環境、河川愛護、周辺景観に配慮した田舎の良さを残した地域づくり。
- ・ テレワーク、ノマドワーキング等の働き方により自然を感じながら地域で暮らす若い世代の増加。
- ・ 過疎地ならではの手を入れない自然の活用を模索すべき。野生動物の保護区等を取り入れながら、ジビエ生活体験地域を目指す。
- ・ 自然と共生する人づくりと村づくり。自然を生かした行事の活性化。
- ・ 室津で牡蠣の養殖をしているが、昭和40年代の子ども頃は、いい意味で赤潮がいっぱい出ていた。下水処理で多量投薬により無菌にしていることもあって、海に栄養が少なく、赤潮も発生しなくなり、牡蠣や海苔等海産物の出来が悪くなった。水産業者にとって厳しい環境である。
- ・ 資源管理・漁場改善の取組として海底耕運を実施。また、漂流、漂着物、湾内の清掃などを行い、港町の美化に努める。

〈検討委員会意見〉

- ・ 豊かな自然とは、森が生活の一部になるなど日常的に自然と接していること。森と地域住民との距離が近くなるような仕組みづくりも価値がある。森と住民との距離がより近くなれば、豊かな暮らしが実現する。
- ・ Uターン者は雇用面だけでUターンを決めるのではなく、自然と共に育ったなど子供の頃のいい思い出や環境も地元に戻る決断をする重要な要素。

目標像2 地産地消でなんでもそろうまち

〈県民意見〉

- ・ 社会保障やインフラの維持が厳しくなっている。多自然地域でも豊かな資源を活用し、自立ができるような仕組みが必要。
- ・ 「食」と「農」により、地元地域の良さを伝える取り組み。
- ・ 地域収支の黒字を目指して、売る、稼ぐ仕組みを成立させる。
- ・ 地域おこし活動による収益の向上を目指す。
- ・ 地産地消の発展に取り組む（地場産の食材（カキ等）を消費）。
- ・ 田畑を活用し、農産物を生産する取り組み。
- ・ 自然豊かな環境を生かした農作物の販売。
- ・ 海の環境が蘇り豊かな海に再生されることにより、新鮮な魚介類が提供でき、食の安全性の確保・雇用の創出も図れる。
- ・ ITを活用した農業生産の振興、オンラインによる農産物の販売促進等生活の上においても高齢者が安全安心して生活できる社会を目指す。
- ・ スマホで水管理するスマート水稻農業。
- ・ 次世代農業（AI等）の普及により就農で生計が立てられる地域。若手の農業への参加。
- ・ イチゴやトマトなど、特色を出して農業をしている人もいる。それぞれの地域に応じた農業ができればいい。
- ・ 皮革だけでは生活できないので、いい技術やいい感性をもった若者はいるが、続けていけない。伝統工芸も一緒に、後継者がおらず廃業するといった悪循環に陥っている。若者が続けていけるような環境づくりが必要。
- ・ 素麺「揖保の糸」の地場産業を守っていかなければならない。30年前にUターンした際は町に勢いがあったが現状は厳しく、子供に対して帰って家業を継いでほしいと言えないのが現状。
- ・ 農家の一番の悩みは、担い手不足。少子高齢化が進む中、今ある農業の技術を後の世代にどう継承していくか、跡を継いでくれる担い手の確保が課題。
- ・ 地域をリードする産業の誘致と、農業・漁業の担い手の育成。
- ・ テクノロジーの進歩による若者の農林業への定着。
- ・ ごみの分別を促進、減量化、資源ごみの再生等により、環境問題に取り組む。
- ・ 自然環境や周辺景観に配慮した循環型社会や低炭素社会への取り組み。

〈検討委員会意見〉

- ・ Uターンしても働く場がないなど、雇用の確保が重要。西播磨は山林が多く日本でも有数の施設がある。これらを上手く活用することで、お荷物の森林資源がお宝に変わる可能性がある。森林資源を活用した地域にお金を落とせる仕組みづくりが大切。
- ・ キーワードは「循環」。兵庫県の中で西播磨のメリットは岡山に近いこと。小さな地域内での循環、グローバルな循環、県域にこだわらない岡山との循環等、考えられることはたくさんある。

目標像3 知恵と工夫で生きる遊休資源

〈県民意見〉

- ・土地が安く、空き家も多くあるが、土地代から解体費用を差し引くと赤字になってしまうため、持ち主がなかなか手放さない。流動性が高まるような取組みが必要。
- ・市内に多くある空き家を活用し地域の活性化につなげる。
- ・商店街で商売をやっているが、7~8割が閉店し、シャッター通りになっている。住居併用店舗で流動性が低く、新しい事業への活用が難しいが、何らかの対策が必要。
- ・雇用を生むために工場を増築したいが、調整区域のため増築できない。
- ・スクラップ事業を起業したが、市街化調整区域が多く、場所を探すときに苦勞した。市街化調整区域について、もう少し柔軟に対応できれば、企業も来やすいし、働く場も増えるのではないか。
- ・廃校に5Gの拠点を作り、ドローンの発着拠点にするなど、より発展的な廃校の有効活用ができないか。
- ・若年層が農業を継ぎ、荒れた地が減ってほしい。
- ・林業従事者の減少や森林資源の利用度減退により山林の荒廃が進んでおり、保全・再生させる必要がある。
- ・企業や投資家所有の山林の管理が必要だが、管理に見合う収益性の確保を目指す。

目標像4 未来をひらく播磨科学公園都市

〈県民意見〉

- ・テクノの状況について、交通の便が悪く、近隣に大きなスーパーもない。産業用地はある程度うまくいっているようだが、住宅用地は余っている。鹿の餌場になるアーバンデザイン（広い植樹帯や塀の禁止など）も見直した方がいいのではないか。
- ・播磨科学公園都市への企業、研究機関誘致、都市機能の充実。

第4の夢 安全安心の西播磨 ～誰もが安心していきいきと暮らせるまち～

目標像1 いきいきと暮らし続けられるまち

〈県民意見〉

- ・ 地域でいつまでも健康で暮らせる、誰も取り残されない地域づくりについて、どうすればよいか考えている。これからはミニマムな単位で子どもから高齢者まで一括して見ることができるチームを、どれだけ地域の中にちりばめられるかという発想が必要。
- ・ 犯罪や非行のない明るい社会はすべての人々の願いであり、次代を担う子ども達が健やかに育つ地域社会が安全安心な社会づくりの基本である。
- ・ 安心・安全な暮らしが一番、時代が進んでも人が生活をする最低限のことである。
- ・ すべての人が健康でいきいきと暮らすことが出来るまちづくり。
- ・ 高齢者が安心して生活できる施設の充実。
- ・ 鳥獣対策を充実させ、安全で暮らせる故郷。
- ・ 介護保険制度等の施行により、高齢者の日々の暮らしの場が変わりつつある中で、人との繋がりのある人間らしい生活。安心して暮らせる地域を、今一度考え直さなければならない。
- ・ 地域住民が来訪者とともに、生き生きと暮らせる地域づくり。
- ・ 悪徳被害防止への取り組み。
- ・ インフラ整備及び住民サービスの拡充、移住者へのサポート等、官民連携による住みやすいまちづくりが必要。
- ・ コンパクトシティの実現
- ・ 交通事故のない安全で安心な地域社会の構築。
- ・ 交通事故が無くなるよう安全安心な整備。
- ・ 人の繋がりが欠如していく可能性がある中でIT主流の生活は今後欠かせない。特に教育、医療は進化が期待される。自宅にいても田舎暮らしでも都市部の生活と変わりなく暮らせる地域。

〈検討委員会意見〉

- ・ 子どもを安心して産めるまち、安心して子育てできるまちというのが、どの年代にとっても暮らしやすいまちに繋がる。
- ・ 災害時や買い物支援など、高齢者が安心して暮らせるように、本当に困っている人の接着剤になり、行政との潤滑剤になれる人材が必要。

目標像 2 誰もが自由に移動しやすいまち

〈県民意見〉

- ・最近、高齢による免許返納者や70歳以上の交通事故が多くなっている。高齢者の移動手段の確保が必要。
- ・特に高齢化の進んだ郡部の輸送手段の確保が必要。
- ・市内の公共交通機関はバスしかないため、コミュニティバスの維持が必要。また、バスの運行システムの利便性を高め、多くの人が利用できる仕組みへの改善も必要。
- ・町内に唯一あった小売店が閉店し、住民が食料品の買い物に困っている。同じような店舗の開店を望む声が多く、住民が自主運営による店舗開業を模索している。
- ・技術の進歩による買い物支援。
- ・買い物、病院に不自由なく行ける。
- ・高齢社会においては、通院、買い物等の足として、自動車は必要不可欠であり、自動運転車両の普及は、現代社会において問題視されている高齢者事故を防止する意味でも必要。
- ・高齢者が自由に移動できる社会（次世代自動車の普及）。
- ・自動運転の進歩による高齢者や障害者が自由に移動できる社会、交通事故のない安全・安心な社会。
- ・交通インフラの維持。
- ・公共交通利用の促進。定住のための交通面の発展。
- ・ドローンによる空中配達、ロボット技術を活用した宅配サービス等、都市部の発展に遅れないようなインフラ整備を進めることが必要。

目標像 3 安心できる健康・福祉・地域医療

〈県民意見〉

- ・産婦人科等医療体制の充実は、住居選びの大きなポイントになる。
- ・子育て環境について、子どもがのびのびと遊べる公園や産婦人科があれば良い。
- ・老々介護等、要介護者のいる世帯の女性に負担がかかっている。介護は先が見えない不安があり、女性が働くことを委縮させている原因の一つ。女性が家庭に埋もれず、自分の力を社会に還元させるべく活躍するには、介護など福祉の充実が必要。
- ・福祉施設へ地元住民が入所出来る体制。
- ・地域医療の充実強化のための医療従事者の確保。
- ・地域において急性期から、回復期、慢性期、在宅医療、介護に至るまで切れ目のない医療・介護サービスを提供できる体制。
- ・遠隔手術やオンライン診療の整備による過疎地の医療不安の緩和。ICTを活用した医療介護の連携システム。
- ・医療・看護・福祉の地域包括的連携による、一人ひとりのICTネットワークが構築されたまち。
- ・オンライン診察や薬のドローン配達が実現した地域
- ・若者・子育て世代で賑わう、健康・医療・福祉サービスが整ったまち。
- ・母子・寡婦家庭の働いている女性が悩みや地域のことについて気軽に相談できる環境づくり。
- ・医療が容易にできる環境づくり。先進技術を駆使した医療体制の充実、働き方の充実等、利便性と安全性が向上し先進技術により地域の不安が解消。

目標像4 防災力の高いまち

〈県民意見〉

- ・高潮対策について、沿岸の防潮堤を一度に上げることは困難なため、高潮が発生すると高いところに逃げるといった危機意識を個人が持つように、もっと啓発していく必要がある。
- ・企業の事業継続の観点からも高潮対策は急務で、高潮に強いまちづくりを進めていく必要がある。
- ・共助による地域防災力の強化。
- ・災害に強いインフラ整備とともに、事前に備える体制づくりや個人の危機意識を向上させる取り組み。
- ・自然災害が増えている中で、特に防災に関する体制づくりが必要であり、企業においては同時にBCP対策が必要。
- ・災害に強い森づくり。